

# KAIT *Vision60*

60TH ANNIVERSARY PROJECT

KAIT Vision60に関する  
お問い合わせはこちらへお寄せください

経営管理本部 総務課

Tel. : 046-241-1214

E-mail : soumu@kait.jp



〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030  
KAIT (カイト)は、神奈川工科大学のコミュニケーションネームです。



[WWW.kait.jp/](http://WWW.kait.jp/)



## 輝く未来に向けて、KAITはさらに進化します



学校法人幾徳学園 理事長  
中部 謙一郎



神奈川工科大学学長  
小宮 一三

幾徳学園神奈川工科大学は、2023年に創立60周年を迎えます。このような節目の年を迎えることができたのは、大学の主役たる学生たちの努力と、彼らの成長を後押しする教職員の皆様のご尽力、そして地域・企業の方々や保護者の皆様はじめ関係各位のご支援の賜物と改めて感謝申し上げます。

さて、創立60周年を迎えるにあたり、学園としてさまざまな記念事業を企画・推進しておりますが、その中で、およそ20年後の大学の姿を描き、内外に宣言するものとして長期ビジョン「KAIT Vision60」を策定する運びとなりました。「KAIT Vision60」は、変わりゆく社会動向を踏まえ、高等教育機関に求められる役割を考慮し、創立60周年を契機にさらに発展する幾徳学園神奈川工科大学としての長期目標を示すものです。策定にあたっては、中堅教職員からなるKAIT Vision60検討会が担当し、1年かけ完成に至りました。本文に詳述しておりますが、本ビジョンの核となる長期目標は「伝統を礎に未来をつくる大学へ」であり、それを実現するために人：「教育」、知：「研究」、絆：「地域連携・貢献」、力：「組織」の4つの基本方針を定めています。そして本ビジョンは今後の中期・長期の実施計画の中で確実に具体化を図ってまいります。

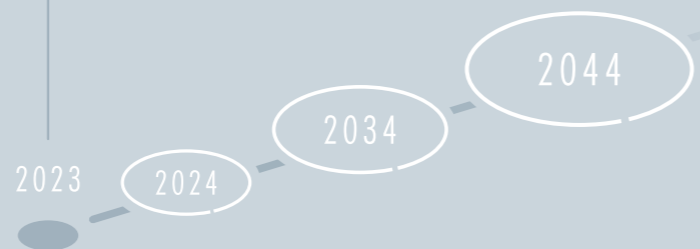
幾徳学園神奈川工科大学は、創立以来、「科学技術の発展に貢献する人材の育成、地域社会との連携強化」を建学の精神、建学の理念、教育目的とし多様な学生を受け入れ、「力と自信がつく教育」によって、3万人あまりの技術者・職業人を社会に輩出してまいりました。これらの実績を踏まえつつ、このたびのKAIT Vision60の宣言を契機にこれからの時代をリードし、さらに発展する大学として全教職員が力をあわせてまいります。是非、幾徳学園神奈川工科大学の今後にご期待いただくとともに、引き続きのご指導、ご支援のほど、宜しく申し上げます。

### ■ KAIT Vision60 検討会

工学部	教授 中津原 克己 (主査)
応用バイオ科学部	教授 飯田 泰広
情報学部	教授 塩川 茂樹
経営管理本部総務課	部長 梶浦 潤一
応用バイオ科学部	教授 小池 あゆみ
健康医療科学部	教授 澤井 淳

(所属・役職は2023年3月時点)

- 理事会において60周年記念事業として長期ビジョンを策定することを決定
- 2022年 4月16日(金) コアメンバーによる検討会を発足
- 2022年 6月 1日(水) KAIT Vision60検討会を発足
- 2022年 9月26日(月) 副学長・学部長会議での説明を実施
- 2022年10月18日(火) 理事会での説明を実施
- 2022年12月13日(火) 評議員会での説明を実施
- 2023年 1月26日(木) 幾徳学園同窓会理事会での説明を実施



## KAIT Vision60

# 伝統を礎に 未来をつくる大学へ

[長期目標]

[長期方針]

4つの要素的な取り組みが互いに連動・融合していき  
KAITと社会の未来をかたちづくっていきます



### 建学の理念

本学は広く勉学意欲旺盛な学生を集め、豊かな教養と幅広い視野を持ち、創造性に富んだ技術者を育てて、科学技術立国に寄与するとともに、教育・研究を通じて地域社会との連携強化に努める。

### コンセプト

社会の未来をつくる力を迎れば、教育に行き着きます。学ぶ意欲のある誰もが、家庭環境や性別、年齢にかかわらず、生きている限り学ぶことのできる環境が今後ますます社会から求められ、大学はその実現の場となるべきと考えています。本学は創立以来、実学を重んじ、学生の個性に対応した教育を柱に日本の産業を担う人材を輩出してきました。今後も課題を発見し柔軟な発想で解決でき、技術によって新たな価値創造を生み出せる「人」を育て、身近な課題から地球規模の課題まで「知」をもって取り組み、個人の個性と能力を十分に発揮できるコミュニティの「絆」を地域社会とともに形成しながら、本学の多様な「力」を結集して、豊かで持続可能な未来へ貢献します。

60周年を迎え、伝統を礎にしながら未来社会を支える新たな技術と人材を生み出し続け、「社会・地域の発展と自然環境との共生、本学に関わるすべての人々との絆」を次の世代に継承するべく、さらなる発展を遂げることを目指します。

## 「力と自信がつく教育」を発展させ、生涯成長を続ける人材を育成する

- 時代・社会の変化への対応力の形成
  - ・学生の多様性に応じた基礎力の養成、学修環境の整備
  - ・大学院での応用力・実践力の養成
- 時代のニーズに応えた教育の推進
  - ・Society 5.0に対応した高度専門教育
  - ・数理・データサイエンス教育の拡大・強化
  - ・自然環境と共生し持続可能でよりよい社会のつくり手を育む教育
- 人材育成教育
  - ・研究とサイエンス教育の連携による知的創造性の育成
  - ・総合的な探究の時間との連携

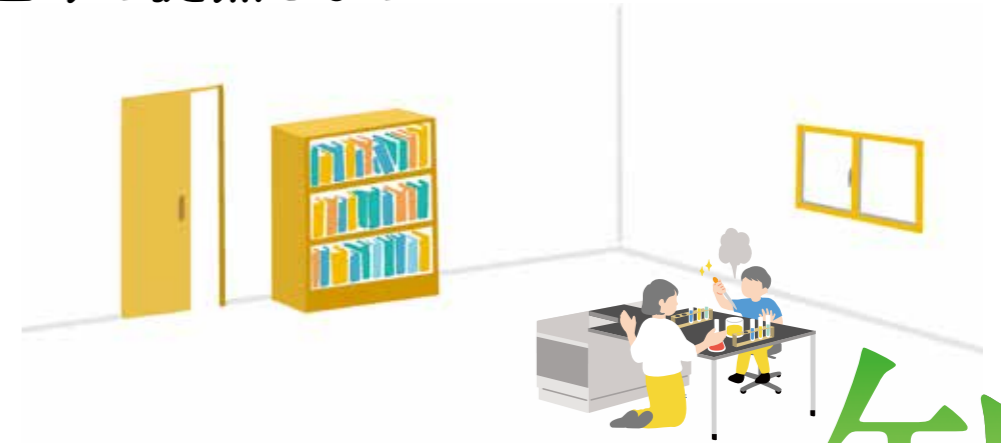
- 課外活動・社会貢献活動の整備・提供
- 時代・社会の変化を推進する力の形成
- 産学連携による実践的教育の実施と専門人材の育成
- 生涯にわたり活用できる大学の仕組みづくり
  - ・社会人講座によるリカレント・リスティング教育
  - ・仮想キャンパスによる生涯学修環境の構築
  - ・次世代人材教育の継続的サポート
  - ・地域連携の一層の推進

建学の理念の中核をなす「豊かな教養と幅広い視野を持ち、創造性に富んだ技術者を育てて科学技術立国に寄与する」ことにもとづき、これまで培った「力と自信がつく教育」を発展させ、**生涯成長を続ける人材の育成**を図る。そのために、教職員が一体となって多様な学生一人ひとりの可能性を見出し、導き伸ばすことで時代・社会の変化に対応していくための基礎を形成する教育を行う。さらに大学院においては、新たな時代を迎える社会の要望に柔軟に応えながら、**応用力および実践力を身につけ、未来をつくり支えていく人材**を育てる。実践的教育および社会実装を進める教育においては、地域連携、産官学連携を組み込んだ実体験・実経験重視のPBL教育をカリキュラムの中心に据え、社会から求められる質保証に応えるものとし、学生が満足し自信をもって卒業できるものとする。

また、時代のニーズに応えた教育として、Society 5.0に対応した全学的な数理・データサイエンス教育の拡大・強化を図るとともに、SDGsにも対応し、自然環境と共生し持続可能でよりよい社会のつくり手を育む教育も行う。

さらに、本学が担う教育は在籍する学生に留まらない。初等・中等教育との連携においては知的創造性の形成、主体的・協働的に取り組む態度の育成に関わり、大学の資源を活用して**次世代人材の教育をサポート**する。社会人の学びにおいては、時代の変化に対応した**リカレント・リスティング教育**や心の豊かさや生きがいの充足をもたらす学修の場を提供するとともに地域連携を一層推進し、**生涯にわたり活用される大学**となる。

## 地域社会と連携し、新たな知識・技術・価値を創出する拠点となる



- 社会課題の解決に資する研究の推進
  - ・SDGs関連研究の推進 (SDGsの達成)
  - ・人生100年関連研究の推進
  - ・Society 5.0関連研究の推進  
AI、メタバース、eスポーツ関連研究の推進
- 基礎研究（シーズ創造）の強化
  - ・研究環境の整備
  - ・研究資源の有機的な運営  
学内共同研究の育成、研究表彰制度創設  
大学院生の研究プロジェクトへの参加支援
  - ・大学が有する研究成果・技術力を活かしたサイエンス教育への展開

未来を担う学生とともに、「人生100年時代、人々の生活・健康を支え、よりよく生きる」ための支援、カーボンニュートラルをはじめ地球環境の保全と利用の好循環を創成する研究を推進する。本学がこれまで培ってきた研究分野・研究体制を尊重しつつ、**研究スタッフとして活躍の場を有する大学院生**を含め、本学のすべての教職員が協働し、常に社会に目を向け、社会課題の解決に資する研究を推進して社会実装へ挑戦する。

- 研究成果の社会実装
  - ・地球環境の保全と好循環をもたらす技術の開発
  - ・Society 5.0を先行的に実現するまちづくり
- 新分野の研究が芽吹く仕組みづくり
  - ・研究機関・企業との連携強化
- 人の生活に寄り添う未来をつくる研究拠点
  - ・ポストSDGs関連研究の推進
  - ・Society 6.0関連研究の推進
  - ・AIと共存した社会の創成への対応
- 新たな知識・技術・価値を創出する研究拠点

さらに、新たな社会であるSociety 5.0関連の研究を推進し、**地域社会および企業との連携強化**を図り、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させた**まちづくりの一端を担う存在**となる。そして、20年後の未来において、**新たな知識・技術・価値を創出する研究拠点**となるために、学内の研究資源を整備し、有機的に機能させることで基礎研究の推進力の強化を図る。その相乗効果により加速的に結果をもたらす**学内共同研究の育成、新分野の研究が芽吹く仕組みの創成**を図る。併せて、本学が生み出す研究成果・技術力をサイエンス教育に活かし、未来の研究開発を担う人材の育成に貢献する。

## 人生100年時代、地域の 知の拠点として頼られる大学となる

### ● 本学(教職員、学生)と地域との連携強化

- ・ICT・AIを活用した地域の課題解決
- ・学びの機会の提供
- ・防災・災害ケア
- ・人々の健康づくり活動の促進
- ・学生の地域貢献活動の継続的サポート

### ● 企業との連携推進

- ・地域社会の課題解決
- ・自然環境と共生する技術の開発
- ・未来の暮らしを支える新たな技術の創造

### ● Society 5.0および自然環境との共生を実現するまちづくり

- ・持続的で活気に溢れるまちづくり
- ・学生と地域の人々との共生
- ・県央地区の地理的条件の活用
- ・地域社会・研究機関・企業との連携強化

### ● 未来をつくり支える地域の知の拠点

- ・絆の次世代への継承

### ● グローバルな連携への進展

神奈川の歴史・伝統を重んじながら、未来の日本および未来の暮らしをつくり支えるために、**本学と地域社会・産業とのつながりを強化**し、本学教職員および学生と地域の人々との絆を育み、社会に貢献する活動を行う。さらに、ICT・AI・データサイエンス等の新技術を駆使し、**社会や地域の課題の解決**を図るとともに、新たな価値を創出し、**Society 5.0を先行的に実現するまちづくりの拠点**となることを目指す。

人生100年時代を迎えるにあたり、地域のすべての人々が充実した生活を送れるように**生涯学修の機会**を提供する。小学校および中学校教育に対しては、**研究事例や成果等を用いた科学リテラシー教育**および体験授業を提供し、地域に根ざした連携教育を行い、未来を担う人材育成に貢献するとともに、本学の知名度・ブランド力を向上させる。また、人々の健康づくりならびに防災・災害ケア等の活動の促進、特に学生の地域貢献活動を継続的にサポートし、**学生と地域の人々との共生**を図り、持続的で活気に溢れるまちづくりに貢献する。加えて、物流の拠点として発展が進む**県央地区の地理的条件**を活用するとともに、**ネットワーク技術**を活用し、人々の交流、グローバルな連携を進め、本学の人的・物的資源の活用を推進し、社会に貢献する。そして、本学の社会貢献、地域貢献によって実現を目指す「社会・地域の発展と自然環境との共生、本学に関わるすべての人々との絆」を次の世代へ継承する。

## 多様な構成員が協働し、学生育成へ 全力を尽くせる柔軟で強固な組織となる

### ● 個々の特色を活かし協働する組織の構築

- ・意見交換の機会を活用した教職員の絆の深化
- ・学生の多様性に対応した総合的サポート体制の充実
- ・初等中等教育および地域社会との連携強化
- ・総合企画支援室(仮)の設置  
未来に向けた戦略の推進  
本学の資源を有効活用した横断的なコーディネート
- ・DXを活用した業務効率化による時間の創出

### ● 教育機関としての社会的ポジションの確立

- まちづくりの拠点としての機能の推進
- グローバルな連携への進展

未来を担う「教育」、「研究」、「社会貢献」の基本方針を推進するため、理事会、職員、教員、学生会、同窓会、それぞれの**特色を活かしつつ、協働することができる組織**を構築する。教職員間、学科・学部間、事務部署間での**意見交換の機会**を大切に、本学教職員の絆を深め、時代および社会の変化に対応し、柔軟に改善し続けることが可能な体制にする。未来を担う人材の育成においては、学生本位主義のもと、学生の多様性に対応し、学修、生活、進路等について総合的にサポートする体制を充実させ、変化する社会の中でも力を発揮することができる教育を進める。また、**初等・中等教育との連携、地域社会との連携**を深め、生涯にわたって活用される大学となるための組織力の強化を図る。

さらに、教育・研究・入学者確保・補助金獲得等、本学の未来に向けて立案された戦略を推進するため、本学が有する人的、物的、経験的資源を有効活用し、**総合的かつ横断的にコーディネートする部署「総合企画支援室(仮)」**を設置し、運用する。ICT・AI・データサイエンス等のDXを活用することで創造的時間をつくり、人々の交流を活性化し、地域社会および企業との連携拠点となり、新たな知識・技術・価値を創出しながら、地球環境の保全と好循環をもたらす社会・地域の実現に貢献する組織になることを目指す。

未来を担う  
絆をつくる

未来を担う  
力をつくる